



第180号

発行所 上高井教育会
 発行人 上高井教育会長 清水 孟
 編集人 会報編集委員長 小池 勝雄
 印刷所 須坂新聞社

「学びの主体は子ども」 学びを組織化する授業を

成田 茂

昨年度に引き続き筑波大学教授谷川彰英先生を中心講師としてお迎えし、「自ら課題をもって、学ぶ喜びを味わえる授業」を中心テーマにした二年次の研究を進めてきました。内容としては、①基礎的・基本的な内容を重視し、教材研究を深めた授業②体験的活動を重視し、活動の量や質を高める授業③子どもが自らの追究課題を明確に学習する授業の実践・具現化です。

五月十六日には、谷川先生より『総合』学習と学びの組織化の演題でご講演をいただきました。その中で「総合」学習のねらいや内容等・授業に対する考え方についてお話され、学びの主体は子どもであり、「学び」の組織化について提案がありました。

二〇〇二年より新指導要領と学校五日制が完全実施される情勢の中で、教科領域で培った能力を総合して進めていく総合的学習が中学校でも設けられ、カリキュラムの作成や授業時間の設定等学校独自で進めていく必要がある。「総合」には参加意欲を育てる評価項目がある。参加の条件として、①その時期にしかできない体験をさせ、意欲をもたせる②行動的に子どもにやらせる③役割を自覚させること④子ども同士・対象との交流⑤自分でやったことを評価したくなる所まで活動させること。

教育には「物事を教える」と子どもが自分で経験する「学ぶ」という二つの考え方があり、教えることは教え、子どもが自主的に学ぶことは任せるという「学び」を組織化していく場面を保証しなければならぬ。学びの主体者は子どもである。子どもが自ら学びを組織化していくため

の能力として①どういうことを学んでいくか選ぶ力②学習対象の選択能力③どのような学習を展開していくか学習企画能力④調査・報告能力⑤自分で行ったことを評価できる自己評価能力を子どもたちに付けておくことが二十一世紀に向けて大事である。

以上が谷川先生のお話の要点として受け止めました。

このお話を受けて、七月十日には、高甫小学校で谷川先生をお迎えして、生活科の研究授業「ぼく・わたしのハンカチ」が行われました。

谷川先生から、子どもたちの実態から出発して行くという新しい発想が二十一世紀に向かつて教育の起爆剤になり、生活科の内容を充実させることが大事で「①素材のパラエ

ティの広さ、豊かさがある②地域・家庭と学校の連携が叫ばれている時代で地域の願いが材料や素材の中に入りこんでいて生活科が先鞭をつけている③実に多様な活動がなされている」授業であったとの講評をいただきました。

(高甫小)

本校の中核活動②

須坂小学校の総合学習

須坂小学校

十一月十四日(土)、須坂小学校創立百二十五周年記念第二回「くぬぎ祭」のメインイベントが行われた。体育館での開会式、次いで、

その学習成果発表の場として、必然的に誕生した。

「須坂小学校の総合学習」は、大正六年の長野師範附属小学校の訓導であった淀川茂重の「児童の教育は、児童にたちかえり児童によって児童のうちに建設されなくてはならない。そこからではない。そこからである。」という教育理念ののちのつとめた伝統ある長野県「総合学習」の考え方に基づいて、教育課程審議会の間中まとめで提案され、現在注目されている。「総合学習」は、各教科の学習で身につけた力を応用・活用することをねらっている。しかし、「須坂小学校の総合学習」はこの「総合的学習」をも包含し、教科の基礎・基本の段階から学習を総合的に展開することをねらっている。今年度は殊に、コミュニケーション能力の育成を中心に置き、その基礎・基本の指導を位置づけた年間指導計画を全クラスで作成し

教育会だより

- 10・21 第5回常任委員会
- 10・26 研究小委員会
- 10・31 教育会研究発表会(於須坂小学校視聴覚室)
- 11・20 研究日 谷川彰英先生
- 11・21 算数・数学研究委員会(指導(於東中学校))
- 12・1 教育会中間会計監査
- 12・10 第6回常任委員会
- 12・15 第6回代議員会

上高井教育会報第180号発行



た。その実践と研究の成果は、「くぬぎ祭」の一週間前に、本校と常盤中学校とを会場に開催された第43回長野県国語教育研究協議会において、研究発表をした通りである。テーマは「子どもの日常の言語生活をもとにした「聞く・話す」学習指導はどうあったらよいかーコミュニケーション能力を育てるための授業改善」である。本大会において、須坂小学校は、授業改善についていくつかの新しい提案と総合学習の素晴らしさを、研究紀要、研究発表を通して実証することができたと考えている。

一年坊主が一生懸命知らない大人のお客さんに蝸牛の飼いを説明している。顔を上気させながら目はきらきらと輝いている。この喜びは来年の「くぬぎ祭」への期待を生み、来年の総合学習への意欲をかき立てている。

(宮坂ゆかり)

平安堂新長野店店長 白鳥千代子氏のご講演から

武田 陽子

今年度の女教師委員会では昨年までのテーマを引き継ぎ新たに「広い視野を立ち求めていくもの」というサブテーマで研究を進めてきました。そして、九月三十日の女教師研究大会には、平安堂新長野野店店長、白鳥千代子様をお招きして「新しい書店の役割」アメリカの書店から学ぶこと」という演題で、講演をしていただきました。

そのご講演から、いくつかの点を示唆されました。まず、本を注文してから手

に届く期間は昔とあまり変わらないうえ、別のルートから入ってくる本を使ってバーゲンをすることは、今までとは違う方法である。時代が求めている改革に応えようとする思いがあれば、少しずつ変わっていくのではないかというお話では、学校教育も同じであると感ずいた。

最後に、アメリカの書店に赴き研修を深めた白鳥店長のように、私たちも学校以外の方からの研修や海外研修なども積極的に参加して視野を広げていきたいものです。

(高山小)

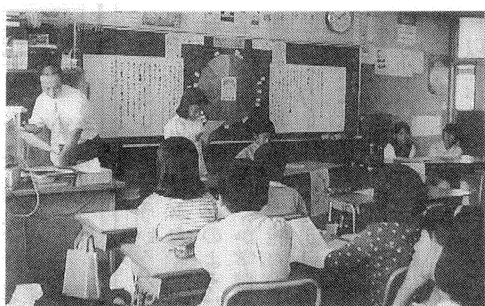
「先生、考えるって体力いるね！」

長井 裕之

表題は教育課程の道德の授業後、日君が思わずもらした言葉です。

本校では「子どもたちが主体的に楽しんで学べる道德のあり方」というテーマのもと、『体験と教材(資料を含む)の道德的価値との一体化』を中心の課題と捉え取り組んできました。それに向けてのアプローチの方法として、①他教科等も含む総合単元を仕組む。(子どもたちの道德的価値に関わる実態を把握する・実態にあった場面ではなく問

題が実態と一致する教材を用いる・多様な授業展開の中で新たな価値への気付きや深まりを促す・捉えた価値をもとに自己決定する経験を積ませる)②模擬体験的な場を設定し、自己を振り返りやすくする。…という二つを考えました。さて、本時「自分の役割と責任を果たそう」資料『残った仕事』では、図書係の仕事をするかクラスの代表としてサッカー大会に行くかで葛藤する場面を、パネルディスカッションをもとに考え合



いました。パネリストの子どもたちは、自分の行為を振り返り、その時の気持ちを根拠として考えを発表しました。その発表を受けて、「自分も

似たようなことで悩んだことがあったな」と自分の経験を想起しながら考えを深めていく子や、「自分も迷惑をかけたしまったことがあったな。穴があったら入りたいよ」と自分の行為に気づき、反省する子もありました。このような学習から子どもたちは、「みんなの考えが分かった」「自分の意見がはっきり言えるから楽しい」「友達と相談したり話し合うのが楽しい」と楽しさを感じることができたようです。そんな満足感から表題のような、教員冥利に尽きる? ような言葉が出てきたのかなあとも思います。本当にありがたいことです。(日滝小)

長野県図書館大会に参加して

成田 千波

今年度の図書館大会は、人形劇のまちとして有名な、飯田市で行われるということで、どんな内容が楽しみにしながら参加してきました。

私が参観させていただいたのは、上郷小学校で行われた三年生の授業でした。この学級は、二年生の頃から、チョウに関心を持って活動してきていて、地域のチョウを調査したり、様々な種類の幼虫を育てて羽化させたりするようなど、多くの感動的な体験を重ねてきています。それらの活動の中から、チョウの本を読みたいという気持ちも高まって、図鑑や写真を見たり、さらにチョウの出でくるお話にも興味を持ち始めていました。本時は、授業の中で、子どもたちに、チョウの出でくるたくさん本があることを紹介する場面でした。授業が始まる前に少し時間があつたので、担任の先生が用意されたチョウに関するクイズが出されました。子どもたちは、チョウのシルエットを見ただけで、学級のほとんどが、そのチョウの名前を当てていて、大変びっくりしました。これまで、この子たちが、どれほど深くチョウに関わってきたかがよくわかりました。

授業では、子どもたちのまわりをぐるりととり囲んでいるつい立てを動かすと、そのかげから、百冊に及ぶチョウに関する本が出てきたので、それを見た子どもたちが一斉に、「ワァー!」と喜びの声を上げ、本に飛びついて行きました。そして、それぞれ、気に入った本を手にとって、友だち同士で自然に読み聞かせをし合っている姿は、すばらしいなあ、本当に本が好きで、子どもに育っているなあと感じました。私自身の日々の読書指導について振り返ると、このような、感動を与えることがなかなかできていないなあと思ふようになりました。二日目の分科会では、私達上高井の代表として、東中学校の畑中恵美子先生が、図書館の利用指導についてのレポートを発表されました。予算が限られている中で、いかに情報や資料を集め子どもたちに提供していけばよいのかを、具体的に発表してくださったので、司書の先生方から、すばらしいという感想がたくさん出されました。記念講演も、スライドを見ながら、具体的にお話してくださったので、とても楽しく聞くことができました。(森上小)

俳句指導を楽しむ

涌井 裕一

俳句の教え始めは大変でした。俳句は難しい、面倒くさい、面白くないと苦情を言われ、さんざんでした。

そこで易しく楽しい学習方法を模索し、生徒作品を使うことを思いつき実践してみたところ、意外にうまくいくことがわかりました。

まず第一に、俳句に対する抵抗感をとることから入ります。新聞のチラシ、テレビのCM等から五音、七音が身の回りにいくらかでもあることに気づかせます。

BSはまたぜんぶやる
今日もお寿司だ〇〇寿司
この夏もやっぱり脚だ
かわいい子ちゃんにやまけちやうよ

次に前年度の生徒作品を紹介



紹介します。それは前年度に教えた生徒達の俳句を一覧表にしたプリントを配り、気に入った作品や作者に〇をつけたり、鑑賞したりしてもらいます。俳句に十分なじむことが目的です。

そうしてから教科書に入り、俳句のきまりを知ったり、通釈したり、鑑賞したり、暗唱したりします。

最後に各自句作をし、「〇年〇組俳句集」としてプリントし、読み合ったり楽しんだりします。この句集が来年度の生徒の入門用になります。

この方法のとりこになり、私は十年一日の如く繰り返してきました。生徒たちは一年また一年と俳句作りや鑑賞に熱中してきて、言葉も自然体に近づいてきました。

このように指導するようになったのは、ある入門書であり、国語科の先輩達でした。自分に合った最高の方法だったとつくづく思います。

〇ナイターで親父騒いでいやになる
〇休み明け授業で眠り家で寝る

〇更衣え全校集会白い海

〇暑ささえ忘れて見入る阿修羅像
などの作品を前に私自身楽しんでいます。

(相森中)

仲間で創る学級通信No.2

県国語教育学会・上高井大会

丸山 広之

常盤中に来年度進学してくる小学六年生に、常盤祭を見てもらい中学校生活を知ってほしいということで始まった学級通信創り。招待状のよう

なまだまだ稚拙なものであったが小学生の人たちには気持ちが通じて常盤祭には小学生の来校者が比較的多く見られた。招待状に中学校生活についての質問用紙を添えたところ様々な内容の質問が、四つの小学校から返事として寄せられた。

自分たちが、中学進学以前本校の宝②

本校の宝②

日に三省すー西田幾多郎先生の書と色紙ー

森上小学校

原稿を頂いた時、本校の宝について校長先生にお尋ねしたところ、即座に一枚の色紙をお出し頂きました。

その色紙は、善の研究等々有名な元京都大学教授で哲学者西田幾多郎先生が本校児童のために書いてくださったというものでした。

西田先生に書いていただいた年代は不詳とのことですが、先生の自筆は額に入れられて校長室に飾ってあり、大切に保管されております。

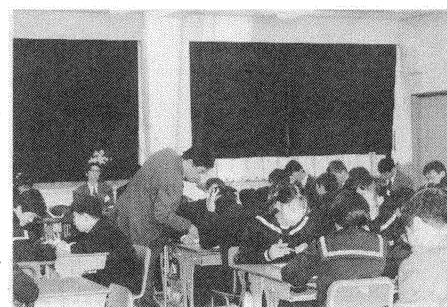
色紙の中の「日に三省」とは、

「論語」の中にある『吾日三省吾身』の一節で「一日に三回、自分をふりかえってみる」ということで、常に自分をふりかえってみることの大切さが説かれています。

なお、「寸心」とは、西田先生の「号」のことです。この色紙は卒業式の日に学校からの卒業記念として卒業生一人一人に校長先生から贈られています。

「森上小学校の卒業生は、この西田先生のことを一生の心の糧として強く、正しく生きて欲しい」そんな願いを込めて、贈られ続けています。先生方にこの色紙を示して書いた人や由来を聞いてみても、西田先生の書であるのと明確に答えられる先生方はだいぶ少なく、なっているのが現状です。

本校の宝である西田先生の書及び



で制作が進められていく。目標を決め、役割を分担し脚本を作り練り上げ、練習して試し撮りをした。

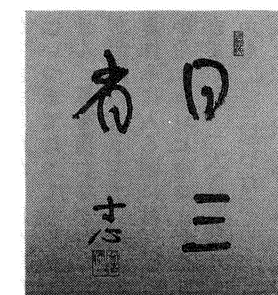
どの班も工夫し努力したことがわかる作品だが、コミュニケーション

生きている欲しい」そんな願いを込めて、贈られ続けています。先生方にこの色紙を示して書いた人や由来を聞いてみても、西田先生の書であるのと明確に答えられる先生方はだいぶ少なく、なっているのが現状です。

本校の宝である西田先生の書及び

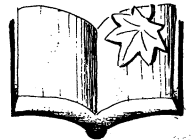
西田幾多郎先生の書

本校の宝である西田先生の書及び



色紙

火ばら 談義

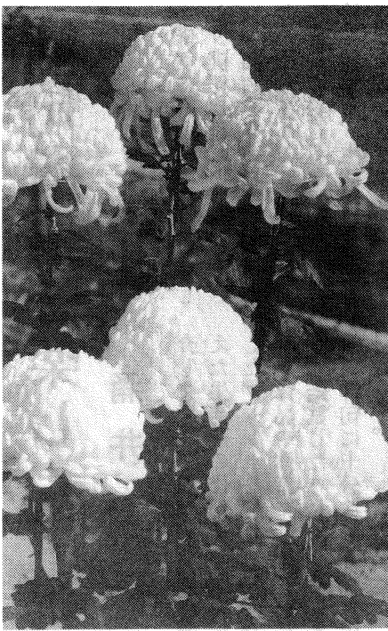


高南小 西原秀明

花づくり

末石 円

小布施は栗と花の街。そこ
このお宅の玄関先にもちよ
っとした花が植えられていま
す。学校前の栗の木歩道の脇
にもお花があればいいと思
いついて、去年から子どもた
ちと花に関わる活動を始めま
した。環境係の先生におんぶ
に抱っこで教えていただきな
がら、種うえ、ポットへの植
えかえ、土の堀りおこし、苗
うえ等、一連の活動をやらせ
ていただきました。子どもた
ちも机上の学習よりよっぽど
楽しいらしく作業も上手にな
ってきたとほめていただきま
した。土にさわる、外の空気
をすう、というのとは子ども
顔を輝かせます。大きなみみ
ずや蛙の出現に驚いたり、ト
ンボとりで没頭したり……
菊作りも今年で三年めにな
りました。四年の時は蟻蛾菊
花びらがかわいい可憐な菊で
した。五年では小菊。そして
六年の今年は三本立ての大輪
「夏休み」菊の世話の三年
間でしたが、今年はちよっ
とさぼってしまったためか、子
どもたちの肩ほどの丈で花が
咲いてしまいました。それで
も花が開くとうれしいです。
子どもと何かを育てる良さを
改めて感じました。



「ふつくらと 白い菊が
咲きました
太いくきのまわりには
こい緑の葉をつけて」
「ほんの小さな
苗から育てた菊は
とても大きな花を
咲かせました」
「土も苗も
きれいに咲かせてくれて
ありがとう」
「子どもたちのスケッチにそ
えた詩より」
(栗ガ丘小)

言葉使い

柴田・勝幸

最近よく耳にする、子ども
たちの言葉使いについて、ど
うお考えでしょうか。
近頃、子どもたちの間で盛
んに使用されている言葉に
「すぐく」の意味で言葉の前
に「チョー」とつけて話して
います。この「チョー」を漢
字で書くと「超」という字で
あることは、みなさんご存知
でしょう。この「超」という
字の意味を辞書で調べてみた
ところ、①ある限度をこえる
こと、②普通の人とかけ離れ
ていること、③比較を絶して
いること、の三つありました。
はたして、子どもたちが使っ
ているような使い方が正しい
のでしょうか。……と言ってよい
のでは。また、目上の人に対する言

「人権の花運動」にかかわって

石澤多恵子

皆さんは、小学生「人権の
花運動」について聞いたこと
があるでしょうか。今年度、
豊洲小学校が実施校となり、
長野県人権擁護委員連合会、
長野県方法務局よりプランタ
ーと花の種五種類を頂きました。
奉仕委員会の児童が栽培
活動をするようになりました

が、指導する私はプランター
で花を育てた経験が全くあり
ません。教頭先生をはじめ経
験のある先生方に一から教え
てもらいながら活動が始まり
ました。子どもたちが水苔に
種を蒔いてから、毎日水を与
えて発芽を待ちました。鶏
頭、マリーゴールド、鳳仙
花、サルビアは順調に発芽
し、苗作り、プランターへの
定植と栽培活動を進めること

ができましたが、日々草だけ
はいつまでたっても発芽しま
せん。種を覆わなかったこと
が原因のようです。それでも
夏休みに入る頃には、隅の方
からヒョロヒョロと発芽して
きました。「大きくならない
かも。」と思いながら土に移
したところ、みるみる元気に
なってプランターに花を咲か
せることができました。
余った苗を家の庭にも植え
たところ、鳳仙花・鶏頭など
とても立派に成長しました。
台風で根こそぎ倒れても数日
後には頭をもたげてきて、最
後まで咲き誇る鳳仙花の強
さ。植木鉢の底の小さな穴か
らも根を伸ばして、全身を支
える鶏頭の逞しさ。心を動か
されることの多い栽培活動に
なりました。
(豊洲小)

編集後記

鮮やかに紅葉した葉も少し
ずつ散りはじめ、朝晩の寒さ
も厳しくなっています。いま
各校では、視放研や研究大
会等が無事終了したと思
います。

本号では、各種研究大会や
研修会参加報告を中心に編集
させていただきました。

ご多用中、原稿依頼を快く
お引き受けくださり、貴重な
原稿をお寄せいただきました
先生方に深く感謝いたします。
(畑中・山浦)

